

シナイ通信 第4号

平成16年2月19日

シナイモツゴ郷の会

事務局 鹿島台町公民館(0229-56-2510)



期待される郷の会の活動……NPO化を目指して

郷の会結成後はやくも2年間が経過しました。この間、多数の会員の努力により池干し・バス駆除によるシナイモツゴ救出、桂沢などにおけるバス生息調査、人工繁殖、小学校への環境教育支援、文化祭や講演を通しての啓発活動、シナイモツゴ里親制度の開始など多くの実績をあげることができました。しかし、ブラックバスは近隣の川や池に多数生息し、人工繁殖したシナイモツゴの盗難事件が発生したりして、シナイモツゴは依然として危機にさらされています。シナイモツゴなど豊かな自然を守り伝えるため、郷の会には、一層の活躍が期待されています。

今後想定される郷の会の活動は下記の通りです。1)と2)は従来どおりですが、3)の外来魚対策は法制化されるので本格化すると思われます。4)の里親制度では人工繁殖を本格化させて、飼育を希望する全国の里親会員に実費で配布します。5)の環境保全調査にも積極的に参加して、地域の環境保全に貢献します。

これを成し遂げるためには会の組織強化と資金確保が必要です。なぜなら、これらの活動は会員のボランティアにより行われますが、活動に必要な諸経費(一部日当を含む)が必要となります。このためには、郷の会を社会的に認知されるNPO法人として登録し、行政や企業と正式に連携することにより資金を得る必要があります。今後、定例会や総会で論議し、円滑に移行できるように努めていきたいと考えています。

現段階では、種々の活動や議決に参加可能な方がN

PO郷の会へ移行し、会の趣旨に賛同し支援していただける方(議決に参加しないがイベントなどには参加可能、飼育用シナイモツゴを譲り受けることができる)には里親の会への移行を考えています。ご意見・お問い合わせは書面で事務局へお願いします。

今後想定される活動内容

- 1) シナイモツゴの保護活動
監視, 宣伝, イベント開催
- 2) 小中学生への啓発活動
ピオトープ支援, 野外観察指導, 講演など
- 3) ブラックバスなど外来魚から守る
H16年に外来種対策が法制化され外来魚駆除が本格化される 駆除へ積極的に参加
- 4) シナイモツゴなどの人工繁殖・里親制度による提供
シナイモツゴなど希少魚を里親会員に実費で提供 全国的な支援体制を構築
- 5) 環境保全調査
環境モニタリング調査など受託調査
- 6) その他事業

シナイモツゴ郷の会 総会

期日 3月13日 午後4時
場所 鹿島台町公民館大会議室
議題 H15年度事業・会計報告
H16年度事業・会計計画
NPO化へ向けて

会費納入のお願い

郷の会は会員の会費で運営しています。H15年度(H15年4月~H16年3月)の会費(1,000円)は事務局(会計)へ直接届けるか郵便振替をお願いします。

定例会のお知らせ

会員相互の情報交換などの場です。お気軽においでください。
時: 毎月第2土曜日午後6時30分
場所: 鹿島台町公民館

年頭の挨拶 会長 安住 祥

立春も過ぎ、梅一輪ほころぶ季節となりました。

少雪の年かと思っていたら、連日の降雪で夏の農業用水確保は大丈夫なようです。

7月の連続地震の後片付けが一段落した10月17日、鹿島台小学校の観察池より大量のシナイモツゴが姿を消しました。マニアなのか？新聞・テレビ等で大きく取り上げられ、シナイモツゴの保護育成について世間の耳目を大きく集めました。

郷の会で、去年は青森県の方々と、本年4月には秋田県本荘市に赴き、保護育成と繁殖方法について意見交換と実地見学をすることに決定しています。郷の会外の方々にも参加いただき、天然記念物シナイモツゴの保護育成を進めて参ります。また、町内の児童・生徒に広く呼びかけ、環境に配慮した美しいまちづくりの支援を進めて参りたいと考えております。

鹿島台小学校ビオトープづくりとシナイモツゴ人工繁殖

渡辺喜夫

鹿島台小学校が4年生の総合学習として町の天然記念物シナイモツゴの飼育と人工繁殖を行うことになり、シナイモツゴ郷の会はこれをお手伝いしながら人工繁殖試験に取り組みました。



4月28日 シナイモツゴを収用する池を作るため、マコモ、ガマなどの水草を採集しました。

4月29日 4年生111人と郷の会会員が参加して実施。まず、校内の池の水を抜いてコイ、フナ、モツゴなどをすくいとり横山ビオトープへ移動。次に池を清掃し、水田の土を入れ睡蓮などを植えつける。

5月下旬 ミジンコの繁殖を確認。

6月1日 シナイモツゴ卵を移入しふ化を待つ。児童達も早く大きくなれと池を覗く。

6月2日～ 一部ふ化開始。郷の会の会員数人で飼育管理を継続。

6月中旬 多数の稚魚が水面近くを泳ぎ、ミジンコを食べている。子どもたちも熱心に観察。

6月下旬 稚魚は食欲旺盛。ミジンコが少なくなりました。

7月初め スクスク成長、体長1.5～2.0cmになった。配合飼料を与え始める(2回/日)。

7月21日 小学校は夏休みに入る。

7月25～26日 宮城県北部地震発生。朝様子を見に行くと、池の側壁に大きな亀裂が入り、漏水

激しい。水位は半分以下に低下。応急処理で亀裂を修理。

8月上中旬 1日2回餌を与え、池の掃除をする。さらに成長し2cm以上の稚魚が多い。

8月下旬 2学期始まる。子どもたちもシナイモツゴが大きくなったと喜ぶ。生息数は2000尾前後と思われる。

9月 子どもたちが餌をあたえるようになった。会員は1日2回の水温測定と池の掃除。

10月17日 午前10時頃、見回りに行き盗難に気付く。池の中に残されたシナイモツゴは200尾前後と思われる。多くの人の協力で育てて来たのに残念でならない。

10月23日 4年生は総合学習で桂沢の野外学習の後、横山ビオトープでフナ、メダカなどを玉網などですくい、教室の水槽などへ移した。

11月 校庭の池とビオトープで越冬の準備をして、今年が終わります。

シナイモツゴ郷の会調査研修会 鈴木康文

秋の気配が感じられます。桂沢ため池周辺の山々が紅く色付き始まっています。一寸寒いが、好天に恵まれました。今年度の桂沢ため池の生息調査および研修会が10月24・25日と2日間にわたって開催されました。私も郷の会の皆さんと貴重な体験をしてみたいのでその経過を記したいと思いいペンをとりました。

第1日目は午後1時、桂沢ため池に会員の皆さん17名が集合し、高橋先生と山谷副会長さんのご挨拶があり、また、わざわざ山田町議会議員さんの激励のご挨拶などがありました。事務局から作業内容の説明があり、それぞれ、分担して調査の準備に取り掛かりました。ゴムボート2隻で定置網、刺網、トラップを、手慣れた皆さんの協力で次々に設置し、心配された風も無く作業も順調に進み予定通りの時間で仕掛けられました。翌日の網起こしで魚の成育がどのようになっているか期待と希望で胸がわくわくしてきました。

1日目の調査終了時に刺網だけ試験的に網起こした結果、ヘラブナやギンブナが7~8尾掛かっており、これには皆さん「ホー」と飛び跳ねる魚に満足しておりました。体長測定の結果、21~46cmの大きさに皆さんニコニコ顔で第1日目の設置と調査を無事終えることができました。

続いて合宿研修会を町学童農園に会場を移して高橋先生から「宮城の淡水魚」と題して川、水田・水路そしてため池に住む魚のお話がありました。恐ろしいブラックバスなどにより減少していった伊豆沼の例や魚が全滅したため池の状況などについてスライドによる説明などがあり、これからの対策



など貴重な講義を盛りだくさん拝聴できました。

研修会に参

加した12名の方と夕食の支度に取り掛かり、カレーライスを準備する人、味噌汁を作る人、サラダを作る人、それぞれ分担で作り(たぶん家事の好きな人たちと思いますが)、だんだんといい匂いがたちこめ腹がグウグウなってきました。完成後、ジュースやお茶などで乾杯し、シナイモツゴの保護活動に対する皆さんの意見や考え方、これからの活動について和やかにお話が進みました。また、事務局の佐藤さんに特別な手打ちそばを作ってください、皆さんおいしく腹いっぱいいただきました(ありがとうございます)。

2日目は午前9時桂沢ため池に集合し、早速、昨日仕掛けた網起こしを行いました。その結果、刺網と定置網には心配されたブラックバスが掛かっておらず、一同安心しました。定置網やトラップにはシナイモツゴ、ゼニタナゴ、ヨシノボリ、ジュズカケハゼ、シマドジョウなどの小魚が入っており、この中には産卵管を出している大事なゼニタナゴの雌も見られました。魚種別に尾数を数え、写真撮影した後、全ての魚を元気に育てよと放流しました。

今回の合宿研修会は郷の会立ち上げ後初めての勉強会であり、皆さんの意見などじっくりと聴くことができました。また、このような企画があれば是非参加したいと思います。

泳ぐシナイモツゴ-町民文化祭参加の記 石井洋子

今年是一般参加として2回目の文化祭ですが、鹿島台小学校のシナイモツゴの池が荒らされたばかりで、展示にも力が入りました。一年間の活動を写真で紹介するコーナー、池沼の生態系を解説するパネル、てれまさむね鹿島台特集(NHKテレビ)の全編放映、そしてなんとと言っても欠かせない、生きた魚たちの水槽。短期間の準備とは思えない充実した内容に、我が会の底力を見ることができました。

水槽の配置を変えたり、説明板の字に凝ったり、ずり落ちるパネルを針金で縛りつけるなど、これはもう、高校の文化祭のノリだなと、ん十年前のバリバリの生物部員だったころを懐かしく思い起こしてしまう私でした。それにしても、割り当てのパネルが2枚とは狭すぎる!と、使えないはずの足の無いパネルを出してきたり、隣の展示から机を一つ譲り受けたり(決して脅し取ったものではありません)、モツゴの会はスペースの拡大に余念がなかったのです。文化祭のブラックバスと言われたいよう、合法的な行動がなされなければいけません(勿論しています)、他のどの団体より立体的にアクティブな展示であったと、内心密かに誇っています。

「こいづがシナイモツゴすかや」と覗き込む人、水槽の中のブラックバスの向きが変わったと悩む大人、郡音楽祭のビデオの前で「ちゃん写ってる」と歓声を上げる子どもたち……。文化祭で一番人気が集まっていたのは私たちの会でした(ほんと)。町の皆さんに会の活動を知ってもらうには、文化祭は大変良い機会です。来年に向けて、そして子どもたちに向けて、夢をふくらませたいと思います。

郷の会は子供たちの環境教育を支援します。鹿島大小4年生と郷の会会員の作品を紹介します。

まとめ(総合学習) 大森寛之(鹿島台小4年)

ぼくは、4年生になって、シナイモツゴのことについての勉強をたくさんしました。

そのまとめを書いています。シナイモツゴのことを調べるために、ぼくたちは、グループにわかれて調べました。ぼくたちのグループは「他の魚とのちがい」と、言うグループです。コイやフナ、シナイモツゴ、モツゴなどについてのことを本、インターネットなどで調べ、それをくらべてちがいを見つけ出し、ファイルなどにまとめていました。

初めてグループで調べをする時は、シナイモツゴについてのことはぜんぜんわかりませんでした。調べ始めて何週間かすると、池干しをして魚をとり、シナイモツゴいがいの魚を横山ビオトープへ持っていきました。6月には看板書きをしました。いっしょうけんめいがんばって作り、できた看板は、東階段 2Fの水槽上に固定されました。グループを作り、調べたものはたくさんありました。内水面(すいさんしけんじょう)では、たくさんのことを教えてもらいました。1学期から11月まで調べたことは、たくさんあります。ぼくは、いろんなことを教えてくれた高橋博士や山内先生にとともかんしゃしています。そしてこれからも、いろいろなことを調べたいです。



鹿島台小学校 4年生総合的な学習「シナイモツゴの故郷に」に参加して(10月23日) 根元信一(会員)

今回、小学4年生のシナイモツゴの屋外学習に参加させていただきました。

当日は、曇り時々晴れ間に見える屋外学習には上々の天気恵まれ、山谷地区の桂沢ため池にて地引網、トラップの2種類の漁具を使用して桂沢の魚類生息調査を行いました。トラップではシナイモツゴ、ザリガニ、ジュズカケハゼなどを捕獲できました。子供達も大喜びで魚を見たり触ったりと、楽しんでいるようでした。残念ながら、地引き網の方は、2回行いましたが子供達の元気な声に驚いたのか、ザリガニが少々かかっただけで魚は取れませんでした。子供達が目を輝かせ、色々な質問を高橋先生にしていたのが印象的でした。

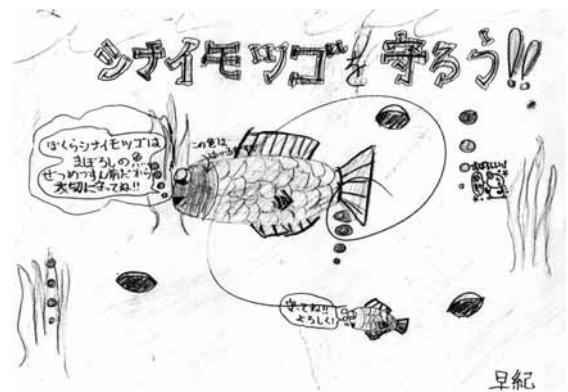
このような学習を小学校4年生対象に毎年行くと聞きとても素晴らしい事だと思いました。将来、子供達が、成長した時、自分の育った地域で守り続けられている素晴らしい池があることを誇りに思えるよう願っています。そのためにも、これから大事に守っていかねばならないと改めて思うしだいです。

ぼくらシナイモツゴ探検隊 鹿島台小4年 三浦一希

四年生のみなさん。ぼくたちのためにじびきあみをしてくれてありがとう。いろんなことをしらべてくれてありがとう。ぼくたちから、おねがいがある。ブラックバスをつつたらにがさないでくれ。

ぼくたちのなかまのメダカやゼニタナゴをたいせつにしてくれてありがとう。

毎日ぼくたちシナイモツゴのせわをしてくれて、本当にうれしいよ。しってるかい。ぼくらは、ざっしょくなんだ。でも、だいこうぶつはプランクトンなんだ。ぼくたちはちかくのぬまにいるよ。さがしてみてね。昔は食べられていたんだよ。でも、今はてんねんきねんぶつだから、だれも食べないからあんしんしたよ。でも、なんで、ブラックバスはきゅうにあらわれたかわかるかい。本当は、ブラックバスは外国の魚なんだよ。でもなんで、日本にいるんだろう。でも本当によかったよ。鹿島台の池にきたから、ブラックバスに食べられなくてすんだよ。でも、けっこうぬすまれてしまったね。こんどからは、ちゃんとぼくらを守ってね。ぼくは目がこわいけど、びっくりしないでね。あと、ぼくは、モ(藻)も食べるんだよ。でも、やっぱりプランクトンだね。



シナイはアイヌ語で大きな川(沢)を意味します。小さな流れが大きな川になるように地道な活動を続けていきましょう。